

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第3区分  
 【発行日】令和5年6月19日(2023.6.19)

【国際公開番号】WO2021/015226  
 【出願番号】特願2021-534062(P2021-534062)

【国際特許分類】

C 0 8 J 5 / 0 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 C 0 8 F 2 6 5 / 0 6 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 C 0 8 F 2 9 3 / 0 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 C 0 8 L 3 3 / 0 4 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 C 0 8 L 5 1 / 0 4 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 C 0 8 L 5 3 / 0 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

10

【 F I 】

C 0 8 J 5 / 0 0 C E Y  
 C 0 8 F 2 6 5 / 0 6  
 C 0 8 F 2 9 3 / 0 0  
 C 0 8 L 3 3 / 0 4  
 C 0 8 L 5 1 / 0 4  
 C 0 8 L 5 3 / 0 0

20

【手続補正書】

【提出日】令和5年6月9日(2023.6.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

なお、アクリル系多層重合体(B)のゴム成分層(b1)の平均粒子径(d<sub>e</sub>)は、成形体の切片を電子顕微鏡により測定する方法、またはラテックスを光散乱法により測定する方法により求めることができる。電子顕微鏡による方法は、成形体の切片を四酸化ルテニウムで電子染色したときに透過型電子顕微鏡にて観察される染色されたアクリル系多層重合体(B)のゴム成分層(b1)中で、最外部を構成するものの長軸直径と短軸直径との平均値である。光散乱法による方法は、多層構造重合体粒子重合時、ゴム成分層まで重合したラテックスをサンプリングし、堀場製作所社製レーザー回折/散乱式粒子径分布測定装置LA-950V2を用いて測定することができる。

30

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

溶融押出成形体における、メタクリル樹脂(A)中での押出方向に平行な断面におけるアクリル系重合体ブロック(c2)の分散相は、球状もしくは柱状の相が好ましい。分散相がラメラ相になった場合は、押出成形体が白濁し、応力がかかった際に白化する。

40

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

50

## 【補正の内容】

## 【0060】

また前記アクリル系重合体ブロック（c 2）の分散相の粒径は、球状相の場合は直径 1 nm 以上、200 nm 以下が好ましく、10 nm 以上、100 nm 以下がより好ましい。1 nm 未満の場合は、アクリル系重合体ブロック周辺への応力集中が小さく、耐屈曲性が発現せず、200 nm を超える場合は、応力がかかった際に白化する。

## 【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

10

## 【補正の内容】

## 【0070】

メタクリル系樹脂（A）とアクリル系多層重合体（B）とアクリル系ブロック共重合体（C）の混合は、以下の4通りの方法があり、いずれを選択してもよい。

(i) メタクリル系樹脂（A）とアクリル系多層重合体（B）を先ず混合し、（A）+（B）の混合物にアクリル系ブロック共重合体（C）を混合する2段階混合方法；

(ii) メタクリル系樹脂（A）とアクリル系ブロック共重合体（C）を先ず混合し、（A）+（C）の混合物にアクリル系多層重合体（B）を混合する2段階混合方法；

(iii) アクリル系多層重合体（B）とアクリル系ブロック共重合体（C）を先ず混合し、（B）+（C）の混合物にメタクリル系樹脂（A）を混合する2段階混合方法；

20

(iv) メタクリル系樹脂（A）とアクリル系多層重合体（B）とアクリル系ブロック共重合体（C）を1段階で混合する方法。

30

40

50